

成果の説明書

(氏名) 佐藤 敦子	(学部) 経済学部 国際学科
1 重要事項	
【研究】	
① 科研費 基盤研究 (C)「芸術文化団体の社会的インパクト評価とファンドレイジングの学際的研究」の研究に取り組んでいる。文化芸術団体が社会課題解決への取組みとして行いうる成果報酬型事業の展開方法についてフィールドリサーチを行っている。当該研究課題の一環として、「非営利企業が文化・芸術活動の維持・振興に果たす役割」と題し、一般社団法人日本協同組合連携機構第 56 回公開研究会において研究報告を行った。(平成 30 年 7 月 7 日) 当該報告は、同タイトルにて協同組合研究誌『にじ』2018 年秋号 (第 665 号) に招待論文として掲載された (同誌 pp31～38)	
② (株) 野村資本市場研究所主催 ESG 債市場の持続的発展に関する研究会にメンバーとして参加。その中で、「グリーンボンドのプライシングに係る考察」と題して研究報告を行った (平成 30 年 7 月 24 日)。	
③ 国際ビジネス研究学会全国大会にて『企業経営におけ ESG/CSR への取組みに関する国際比較研究』と題して研究発表を行った。(平成 30 年 11 月 11 日)	
④ 早稲田大学ビジネス・スクール、Wharton Business School、日産財団共催「Global Resilient Leadership Program 2018」において「文化を超えるグローバル・リーダーシップ」と題して講演を行った。(平成 30 年 11 月 21 日)	
⑤ 環境省・日本総研より研究助成を受託し、「グリーンボンド等のプライシング・リスク・インパクト等に関する調査研究」に取り組んでいる。その一環として、環境省主催『ジャパン・グリーンボンド・シンポジウム』において研究報告を行った (共同発表者: 本学 宮田准教授) (平成 31 年 3 月 1 日)	
【教育】	
① 高等学校への出前授業 (2017 年 7 月 11 日、福島県磐城桜が丘高校)	
② 本学オープンキャンパスにおけるデモンストレーション講義担当 (2018 年 8 月 5 日)	
③ 地域科学研究所公開講座において『官民連携による社会課題解決に向けたソーシャル・ファイナンスの取組み - より良い社会を求めて』と題して講義を行った (2018 年 10 月 12 日)	
④ 野村総合研究所の松田真一氏を招聘して国際学科主催講演会『歴代成長企業の見極め方: 経営ミステリーを解く仕事』を企画・実施した (2018 年 11 月 30 日)。	
⑤ 基礎演習 (ゼミ) の一環として、春休み中に二泊三日のゼミ合宿を行い、個人研究の成果発表会を行った。通常の授業に比べ、時間を存分に使うことが出来たので、じっくりと議論を行い、充実した学習機会となった (2019 年 3 月 31 日～4 月 2 日)。	
2 その他の事項	
① 群馬県庁 景気動向指数アドバイザー委員 (2017 年 5 月～)	
② 川崎市 文化芸術振興会議委員 (2018 年 2 月～)	
③ 高崎経済大学 学生支援委員 (2018 年 4 月～)	
3 次年度以降の計画・抱負	
研究面では、平成 30 年度に引き続き「社会的インパクト評価」「ESG ファイナンス」	

の研究に取り組んでいきたい。科研費の研究課題は 2 年目となるので、海外におけるフィールド調査を行う機会と時間の確保に努めたい。また、環境省研究助成課題も同じく 2 年目となるため、研究成果のとりまとめに向け、研究時間の確保に留意して取り組む所存である。

教育面では、国際学科 1 期生である新 3 年生のゼミ活動の充実に努めたい。具体的には、①学内外の研究発表・プレゼンテーション大会への参加に向けた指導・支援、②卒業論文作成をゴールとする個人研究への継続的な取り組み、③就活に向けたモチベーションを高める議論、これらの取り組みを並行して行っていく。新 2 年生についても昨年度同様、論文作成に係る参考文献の輪読およびプレゼンテーションや発表の機会を多く設ける方針である。また、本学における外部講師を招いた講演会の機会等を積極的に企画し、学生への知的刺激の創出に努める。

ゼミ演習以外の担当講義科目について、国際経営、国際マーケティング、異文化経営それぞれの最新の学術的知見を盛り込みながら、学生の興味関心を高めるような事例のアップデートに努める。また、学生の積極的な授業参加およびアクティブラーニングを意識して講義運営を行う所存である。